元祿時代の文藝

間違つた學問

日本をいやしむ不屆もの

前にも記した樣に、五代將軍綱吉の頃には、幕府も大名も學問を好んでこれを奬勵しましたので、學者が非常に澤山出ました。そして當時の學問と云へば大抵は漢學であり、漢學の中でも朱子學といふのが最も盛でありました。朱子學は幕府の役人であつた林羅山の奉ずる所でしたから、それで最も勢力があつたのです。併し中には朱子學に反對するものもあつて、中江藤樹は陽明學を說き、荻生徂徠は復古學をとなへました。

ところでこの徂徠といふ人は、漢學を研究するに伴つて非常に支那を崇拜し、却へ

つて日本をつまらないものゝ樣に申しましたから、心ある人からは甚しい反對を受けるやうになりました。元來江戸の生れでありますが、先祖が三河の荻生といふ所に居たのでそれを氏としました。

父は幕府に仕へた醫者でありましたが、徂徠は五歲の時から文字を知り、十歲の時には文章を作ることが上手になりました。大きくなつてから家をつぎ、子弟を集めて朱子學の講義をしてゐましたが、家は極めて貧乏でありました。ところが將軍綱吉のお氣に入りであつた柳澤吉保に仕へて大層可愛がられましたので、次第に出世して五百石を貰ふやうになりました。

徂徠は非常に學問が廣くありましたが、支那を崇拜するのあまり、日本を東夷と稱し、自分の姓名も、祖先が物部氏だからといふので物徂徠と支那人らしい姓名をとなへてゐました。いくら學問が出來ても、こんなにしてわが國をいやしみ輕んずる樣になつたといふことは惜しいことです。

勿論徂徠のこうした態度には反對する人が澤山ありました。中でも山鹿素行の如、

きは、中朝事實といふ書物をあらはして、わが上古の歷史を述べ、尊嚴なわが國體は萬國にすぐれてゐること、忠孝はわが建國以來の大道であつて、決して支那の眞似をしたものでは無いことなどを明かにしました。

明治以後になつては、支那を尊ぶ人はあまり無くなりましたが、西洋を尊ぶのあまり却つて日本をいやしむものが澤山出來ました。勿論日本は西洋諸國よりも發達が後れてゐたのではありますが、日本の國體の美しさ、日本人の忠孝の精神などは遙かに西洋よりもすぐれてゐるのでありますから、その點は誤解しないやうにしなければなりません。いくら學問がよく出來ても、日本精神のぬけた人間は駄目です。

小說と淨瑠璃

一般平民の讀みもの

學問が盛になるにつれて學者が澤山出來、それ等の學者が塾を開いて子弟を敎へましたので、大名や武士ばかりでなく、一般の人民にも學問をするものが次第に殖

えて、そのために一般平民の讀むやうな、面白い書物を書くことが流行るやうになり、平民文學が發達しました。卽ち小說とか、淨瑠璃とか、俳句、狂歌などが、非常に發達したのです。

小說は平安時代から已に盛で、源氏物語などは有名なものですが、これは多く貴族の讀むもので、一般平民の間には行きわたりませんでした。ところが江戸時代の小說は人情本・洒落本などと云つて、平民の義理と人情に關するもの、中には隨分猥褻なものなどもありました。有名なのは大阪の井原西鶴で、好色一代男など數十種の著作があります。極めて輕い碎けた文章で、巧に當時の言語・風俗・人情を寫し出した所は、誰にも眞似の出來ないものでありました。

それから實錄物と云つて歷史上の人物や事蹟を種にし、色々な作り話をつけ加へたものがありました。大岡政談などはその一例ですが、讀んで中々面白いものであります。又草雙紙と云つて一枚毎に繪を描き、その繪のすき間に平假名で文句をかいて婦人や小兒や凡て學問のあまり無いものにも、極めて讀み易いやうにしたもの

もあつて、廣く世間一般に廣まつてゐました。今頃で云へば何々畫報などにも相當するでせう。

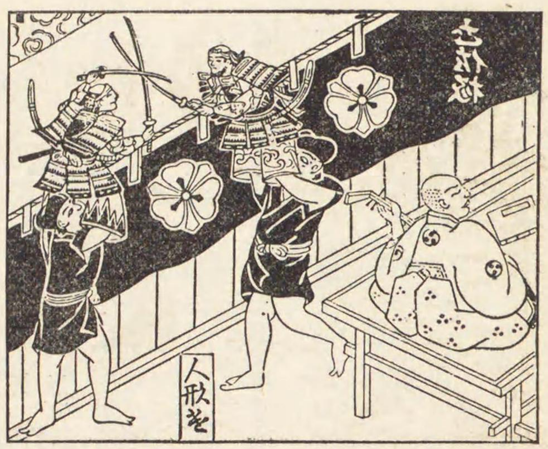
それから淨瑠璃といふものが發達しました。これは節をつけて語つて聞かせるもので、大阪に竹本義太夫といふ上手な語り手があつたので、淨瑠璃と云へば義太夫のことだといふやうになりました。

前に云つた井原西鶴も淨瑠璃を作りましたが、最も有名であつたのは近松門左衞門で、それについで竹田出雲なども出ました。

その頃京阪地方に、操人形芝居といふものが大層盛でありました。これは淨瑠璃の節にあはせて、人形を踊らせるお芝居でありまして、今

り人形

てゐます。幕の外からは人形だけ見えるやつてをり、その右には人形が澤山ならべて



あやつ

左の方に二人の人形つかひが人形をあやつりになつてゐます。右の方には淨瑠璃を語あります。

は、大阪の文樂座に行はれてゐますが、次第にすたれて行つて他ではあまり見られなくなりました。ところがこの人形芝居に語る淨瑠璃に、あまりよいものがなかつたので、近松門左衞門が數十種作つて、これを竹本筑後掾等に語らせました。これから芝居が一段と盛になつたのであります。

近松門左衞門は今の山口縣萩市の人であります。子供の時唐津のお寺にやられて坊さんになりましたが、後志を立てゝ京都に上り、廣くわが國の古い學問を修めました。そして淨瑠璃を書いて非常に有名になりましたので、東洋のシェークスピヤだと云はれてゐます。シェークスピヤといふのは英國で一番のお芝居を書いた大家であ

近松門左衞門

ります。近松の作の中で最も名高いのは、鄭成功のことを種にして書いた「國姓爺合戰」で、その中にはわが國體の美しさが巧妙に說かれてあります。

近松に次で名高いのは竹田出雲です。彼は大阪の劇場、竹本座の座主の子に生れ、一方では芝居を興行しながら一方では淨瑠璃を作つたのです。その中菅原道眞を種にした「菅原傳授手習鑑」源義經を種にした「義經千本櫻」、及び赤穗義士を種にした「假名手本忠臣藏」などは最も有名で、「忠臣藏」が最も廣く世に行はれてゐることは已に前にも述べた通りであります。

日本特有の藝術

世界の人たちの驚く俳句

俳句は又發句とも云ひます。それは俳諧の最初の句のみをよむからであります。俳諧は足利時代の末頃から始まつたものですが、後には大層輕佻浮薄なものとなつてゐました。ところが元祿の頃になつて松尾芭蕉が出て、すつかりその風を一變しました。

芭蕉は今の三重縣伊賀國の人であります。子供の時から非常に賢く、大きくなつてから支那の學問や禪學を修め、又北村季吟といふ人について俳諧を學びました。江戸に出て幕府に仕へてゐましたが、僧西行が世をすてゝ各地を廻り歩いたのを慕ひ、自分もあの樣にしたいと思つて、遂に病氣と稱してその役を辭しました。

その時年は三十七でしたが、深川に小さな家を建て、髮を剃つて坊さんの風をしてゐました。ところが深川に大火事があつて、その家も丸燒けになりましたので、暫く甲斐から駿河の方を廻り歩き、やがて又深川に歸つて家を建てました。その家の庭に芭蕉を一株植ゑて、大層愛してゐましたが、後には非常に繁茂しました。それで自分の號を芭蕉といつたのであります。

芭蕉は隨分方々を旅行して廻りました。貞享四年には鹿兒島に遊び、その翌年は大和を巡り、元祿二年には陸奥に赴き、七年には伊賀に居ました。それから大阪に行つて、更に奈良に行くつもりでしたが病氣になり、その年十月に大阪で亡くなつてゐます。その時芭蕉は年が五十一でした。

芭蕉のよんだ俳句の中で、最も名高いもの五つ六つを擧げて見ませう。

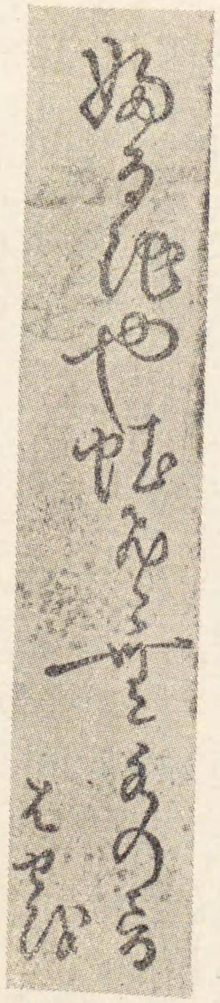
枯枝にからすとまれり秋の暮

道の邊のむくげは馬にくはれけり

古池やかはづ飛びこむ水の音

花の雲かねは上野か淺草か

荒海や佐渡によこたふ天の川



芭蕉の書
ふる池や蛙飛こむ水の音　ばせを　と書いてあります。芭蕉の自筆であります。

もの云へば唇さむし秋の風

いざ行かん雪見にころぶ所まで

木曾殿とせなか合せの寒さかな

わづか十七文字の中に、千萬無量の意味が含まれ、簡單にあつさりと云つてのけた中に、何處までも考へさせる深い心の籠つてゐるところが、俳句の妙味といふものであります。この妙味は日本人のみが解し得るところで、凡そ世界にこれほど簡單な藝術はありません。そして又これほど一般平民の中に行き亘つた藝術も、何處の國にも見られないのであります。皆さんも一つやつて見てはどうですか。

學校の歸りに雪がふりはじめ
又今日も雨で遠足だめになり

と云つたやうなものなら、屹度皆さんにもわけなく出來るでせう。

天才と勉強

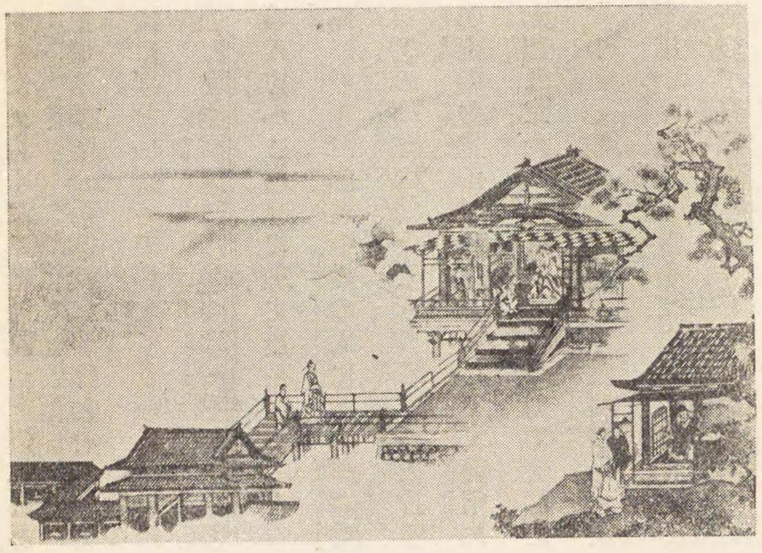
馬の草鞋が蟹となる

泰平が久しく續くにつれて、産業は榮え人民は裕福になり、その生活程度も次第に上つて來て、上下共に奢侈に赴きましたが、その結果として美術や工藝の發達は實に目ざましいものがありました。そして前に述べましたやうに、文學が平民的の方面にまで發達したと同樣に、美術の方も亦概して平民的の方面に發達し、世間一般の人民がこれを愛玩するやうになりました。これを平安朝の時代に比べると大變な違ひです。卽ち平安の文化は貴族の文化であり、江戸時代の文化は平民の文化であると云つてもよいでせう。それだけ世の中が進んで來たのであります。

美術の中、繪畫では第三代家光の頃に狩野探幽が出で、第四代家綱の頃に土佐光起が出ました。狩野家も土佐家も、共に足利時代から有名な繪かきの家でありますが、兩家ともに一時衰へてゐたのを、探幽と光起とによつて、再び盛にしたのであります。戰國時代のやうに世が亂れてゐては、繪などをながめてゐる暇もありませんから、その道の衰へてゐたのも無理はありません。

探幽は三つの歲から繪が好きで、どんなに泣いてゐる時でも、筆を與へるとすぐ

泣き止めたと云はれてゐます。ですから四歲の時には、もう餘程稽古したものほど立派な繪を描いてゐました。



探幽の繪

狩野探幽の描いた宮殿と人物の繪です。名古屋城の襖にかいたもので、支那の昔話をあらはしてゐます。その繪の上品なところが探幽の特色です。

大きくなつてから、宋・元など支那の名家の繪を手本とし、又、雪舟の繪を學びました。そして刻苦勉勵して、遂に何人とも違つた一風ある繪をかく樣になりました。人物でも、山水でも、花鳥でも、虫魚でも、何でも上手にかきました。勿論その間の苦心は並大抵ではなかつたので、いくら生れつきの天才でも、勉

強せずにえらくなる者は無いといふことがわかります。

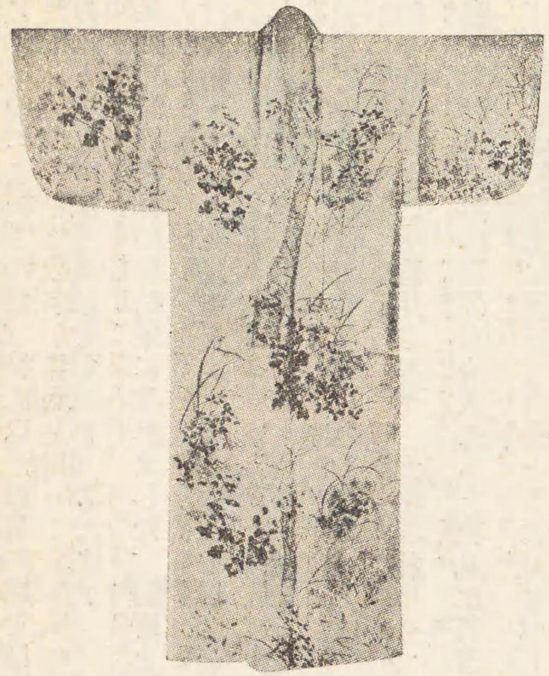
嘗て仙臺侯の伊達政宗が探幽を招いて金屏風に繪をかかせました。すると探幽は大硯に墨を一ぱいすらせて置いて、馬の草鞋をとつて來て、それを墨汁につけてべタ〳〵と金屏風に押しつけ、それから竪に棒のやうな線を數本無雜作にひいて、こちらの方へは小さな點を無茶苦茶に打ちつけました。これを見た政宗は頗る不機嫌でありましたが、そのうちに探幽が、筆をとつてチョイ〳〵と書き添へて行きますと、馬の草鞋は蟹となり、棒は蘆となり、點は群れ飛ぶ燕となつたそうです。その出來上りを見て、政宗もはじめて非常に喜んだといふことです。

光起は父について繪を習つてゐましたが、二十二の時父を喪つたので、祖父の門人について勉强し、遂に非常な妙手となりました。宮殿樓閣、月卿雲客、花卉鳥獸、何を描いても殆ど生きてゐるやうで、殊に鶉がお得意でありました。元祿四年に七十五歳で沒しました。

元祿風

金の蒔繪を投げすてる

岩佐又兵衞は世態風俗を描くことが上手でしたが、その畫風を習つた菱川師宣に至つて、遂に、浮世繪といふものが出來ました。世の中の一般風俗つまり浮世の有樣をかいたから浮世繪と云つたのでせう。花見の圖、演劇の圖、花街の圖、四季遊山の圖、船遊の圖など何れも當時の風



光琳模樣

光琳の繪を織物に染めたもので、元祿時代にはこの模樣が隨分流行しました。

俗を知るのによいもので、後にはこれ等の繪を印刷にすることが流行して、これを江戸繪と稱し、廣く全國に行はれてゐました。

尾形光琳は京都の染物屋に生れました。狩野と土佐と兩方を習つて更に一派を立て、人物・山水・花鳥など悉く金銀泥を以て着色し、殊に草花の彩色は最も巧でした。光琳は又蒔繪が上手で、漆器に金銀粉を蒔いて色々の繪を描き、又錫・鉛・青貝などを欽め込んで奇拔な模樣を出しました。世にこれを光琳風と云ひ、後には織物や陶器などにも應用されて、光琳模樣は今でも珍重せられてゐます。

嘗て光琳は京都の贅澤な商人たちと花見に行きました。商人は何れも金銀の模樣けば〳〵しい辨當箱を開いて自慢そうに見せびらかしてゐましたが、獨り光琳は竹の皮から握飯を出して食ひました。ところがその竹の皮の裏を見ると、悉く金箔で一面に花鳥山水を蒔繪してゐましたので、さすがの商人もその贅澤に驚きました。光琳は歸る時にその竹皮を惜氣もなく大堰川へ投げてしまひましたので、商人等は再びびつくりしたといふことです。

元祿時代の風俗の華美で贅澤であつたことは、この話でも大體わかりますが、武ばつたことは一般にいやがられて、刀劍の話などするものはありませんでした。男子は鬚髯を剃つてしまつて、中には白粉をつけたり眉を細くしたりして、女の眞似をするものさへありました。頭髮を結ふにも紙捻を使つてゐたのをやめて、この頃から元結といふものが出來、髮に油を塗ることもはじまりました。

羽織は長くなり、小袖の裏は紅くなり、肌衣の袖口の赤いのを長く出すことが流行りました。婦人の帶も幅が廣くなり、絹や木綿の白足袋をはくこともこの頃からのことです。婦人の頭髮などは、元祿髷と云つて、特にはでやかに結つたもので、

元祿風俗

武士は女の樣に愛らしい小姓を連れてゐます。女の髮は元祿髷、袖は元祿袖です。着物の模樣も大變派手な元祿模樣であります。

衣服の柄にも元祿模様と云つて、極めてけば〳〵しいものが流行りました。日露戰爭後に、一時この元祿髷や元祿模様が流行しましたが、元祿袖といふのは今でも盛に行はれてゐます。

元祿時代は華美であつたと云ひますが、それは主として大阪が中心で、江戸はまだそれほどでありませんでした。その頃は武士は貧乏で町人が富んでゐたのですから、商業の中心たる大阪が流行の中心でもあつたのです。それで江戸ではまだ昔の質素な風が幾分殘つて、あまり贅澤な風はありませんでした。その江戸が大阪に負けないやうに贅澤になつたのは、十一代將軍の頃からのことで、それは次の巻に記すことにいたします。

昭和十一年三月三十日印刷
昭和十一年四月三日發行

少年國史文庫
江戸時代（上）【定價一圓】

著者　西龜正夫　東京市麹町區下六番町四十八番地
發行者　岡本正一　東京市牛込區山吹町百九拾八番地
印刷者　櫻井專吉　東京市牛込區山吹町百九拾八番地
印刷所　厚生閣印刷部　東京市麹町區下六番町四十八番地
發兌　圖書出版　厚生閣　振替東京五九六〇〇番　電話九段三二一八番

11.3.31

西龜正夫先生著

少年國史文庫

國史はわれわれの祖先のことを書いたもので、これを知らないものは立派な日本人とは言はれません。ですから國史は一番大切な科目です。三千年のわが國史には隨分色々なことがありました。そしてその底を流れてゐるものは大和魂です。昔から立派な人になつた傑い人は、みな國史を讀んで發奮した人たちです。本文庫は始めから終りまで、面白く且つ間違ひのないやうに書かれた子供の爲の一番詳しい國史の本です。

☆全十二册　全卷完成　自分由賣

1—神代と上古	7—織田豐臣時代
2—奈良及び平安時代	8—江戸時代(上)
3—源氏と平氏	9—江戸時代(下)
4—鎌倉時代	10—明治維新前後
5—吉野朝時代	11—明治時代
6—足利及び戰國時代	12—大正昭和時代

四六判美装函入各册二百頁
ふりがな付・本文挿繪多數
定價各册一圓
（送料各册十四錢）

★少年愛國讀本★

（全五册）

兒童に喜ばれる新らしい小國民文化讀本

吾等の愛する國日本！日本の船が今どんなに歐米先進國の商品を壓倒し南米からアフリカ印度其他凡ゆる地球上の港々に日章旗をへんぽんと翻しつゝ世界各國から狼の如く恐れられてゐるか、諸君はそれを知つてゐるであらうか、武の國日本は今や堂々商業の國工業の國として世界中に君臨してゐるのだ。然し吾等はそれを威張る前に、どうして日本がこんなに強いか、又どんな人達が今迄日本の爲に盡して來たか、世界の大勢はどうなつてゐるのか、それらに就て正しい知識を持ち、且つ確たる自覺を持たねばならぬ。日本を愛する諸君！此意味で續いて下記の本を讀んで下さい。

刊行趣旨

▽日本精神を年少第二の國民に正確に把握せしめんが爲に！　▽愛國心涵養の方法が在來餘りに抽象的であつたのを補はんが爲に！　▽修身國史地理國語の各科を國民的自覺の下に統一補説せんが爲に！　▽將來日本を背負つて立つ意氣と覺悟を養はしめんが爲に！

東京成蹊學園訓導　**野瀨寛顯先生著**

◈祖國の話

われ等の祖國日本だ　日本を知らなければ　日本人でない。何よりも先づ祖國を知れ

◈風習の話

風習は氣風の源泉である。日本の眞の國民性を自覺させる現在までの風習の話。

◈戰爭の話

一度も負けた事のない日本。それは何故であらう。各戰爭の原因から武器迄詳細

◈偉人の話

偉くなる爲には偉い人の傳記を讀むのが一番だ。面白い中に愛國心を涵養させる

◈國史の話

世界一の日本は五十年や百年で築かれたものではない。類なき日本の國史を見よ

四六判細布・美裝各函入二百十餘頁
定價各册一圓三十錢
送料各册十四錢

（ルビ・フリガナ付・兒童用美裝本各册共美麗口繪附・挿繪多數）

元乃木第三軍副官
服部眞彦中將跋
姪孫 菊池又祐著

乃木夫妻の生活の中から

〔好評五版〕

四六判布裝函入 三百五十頁

價一圓八十錢 送料十四錢

人間的な然も其故に苦み悶へた武人夫妻の眞面目躍如

近く餘りにも身近く將軍夫妻の寵愛を受けた肉親の祕稿!!

旅順の激戰中に、愛兒を思ふて密かに一行者の門を叩く靜子夫人！凱旋の祝宴の夜に、シロウマ(濁酒)に醉つて寺内陸相を著者に撲らせた人間乃木！ 萬歲萬歲の提灯行列の歡呼を耳に、勝典保典二子の遺骨を前にして「息子に頭を下げるわけがあるか、靜！ 靜！ 酒を持つて來い」と軍服を脫ぎ棄てゝ大の字に寢る悶々の將軍の姿！何れも未だ嘗て世に現はれざる將軍夫妻の、肉親の見た生活記錄だ

【內容抄】——新阪邸のこと・勝典の望遠鏡・街上のナンセンス 三瓶の香水・保典の出征・少年の世界に・勝典の死・十郎の死、保典の死・凱旋の日・私のきいた昔語り・寮生と筍・子弟に對して・病床閑日・生活の片鱗・渡英と露國訪問・私の欲しがつた燈籠・等滿載

川畑篤郎著 〔三版〕

四六判極美裝本 三六〇頁振假名付

普及版定價一圓四十錢 送料十四錢

小學國史 日本女性名花集

嵐の輿望に答へて 玆に普及版刊行!!

國史の上に輝く偉い女性ばかをり集めた面白い讀み物。讀んで樂しく、知らず識らずのうちに修養が出來る。歷史の力がつく。讀み物として最上だ。總振假名付本。學校に備へてよく、家庭で讀ませて成績があがる。女の偉い人々の傳記を全部をさむ。

★目次概略★

御國開き・天照大神・細女命・木花咲耶媛・功皇后・八田皇女・草香の幡稚媛・推古天皇・光明皇后・法均尼・和泉式部・正子皇・紀内侍と小野小町・赤染衛門・伊勢大輔・清少納言・政家の妻・小督の局・阿佛尼・藤原廉子と勝子・御佛前・卿の局・阿佛尼・建禮門院・靜御前・源政子・後局・卿の局・阿佛尼・建禮門院・靜御前・源政子・正行の母と辨內侍・瓜生保の母・菊池武時の妻・光秀の夫人・慶光院の人々・小谷の方・勝頼の妻・義政の妻・忠興の妻・一豐の妻・淀君(他近代まで數十名)

今まで皆さんの讀み物の中には、面白いものが澤山ありましたが。しかし惜しいことに、日本歷史の中で名高い女の人たちばかりを集めた讀み物は、一つも見當りません。英雄傳や豪傑傳や武人傳はあつても、女性だけの面白い傳記はないのです。どんどん賣れるので普及版を出しました。面白くて、ずつと續けて讀めば女性日本歷史にもなります。歷史を知らない國民は母のない子と同じです。あなた方の母の姿を知つて下さい。

姉崎正風氏編

人生逸話

四六判純美麗裝
函入二九〇頁
定價一圓五十錢
送料十四錢

儒夫を起たしめ失意の人を發憤せしめるもの、これ傳記の外になし傳記の粹を拔きこれに訓話の體を與ふるもの、之卽ち人生逸話なり逸話は偉人の內面生活の顯現であり、これを體驗することは精神修養の直接刺戟となる。日々座右に一本を置けば讀者自ら向上せん。

【內容の一部】——妻と老人に勵まさる・橋下の乞食に情の竹皮包を與ふ・遲鈍の才を以て杉山流を開く・誠忠を以て宮內大臣を低頭せしむ・大晦日に商人の心掛けを說く・好んで盲目學者の妻となる・天覽演技で體重が減る・正月に假病して寢込む・射擊の拙手に賞を與ふ・敵軍に多くの酒肴を贈る・寢衣の儘で參內す・流謫の島から卒都婆を流す・自若として論語を講す・勝負を度外視して事に當れ・記念の痣を大切にす・女の一言を聞いて悟る・其の他數十

皇國の興廢は人物の有無に依つてきまる。人物を作るものはやはり人物であり、逸話の價値もここに在る。本書の價値はその「人生逸話」なるところにあり。各話並び立つて一讀卷を措く能はざらしむ

小瀧淳著

先賢遺話 逸話美談

四六判美裝函入
四百七十餘頁
總アリガナ付本
定價二圓
送料十四錢

逸話の「粹」を集め美談の「精」を蒐む總振假名付の美本子供の爲の好讀物大人の爲の修養書讀んで面白く平易教科指導の良資料學校に家に文庫に!!

「日本人はこゝにゐる!」さう叫んで決然起つた村上氏の滿洲に於ける日本精神の發揚は今日我々に大きな感動を與へる。が、古來かくの如き崇高なる精神の發露は枚擧に遑がない。著者は名話・佳話・美談をよく廣きに亙つて涉獵し、世に未だ出でざるもの幾十を加へて簡潔深遠、粹を拔き精を集めて三百の村上氏を過去に求めた。これ實に美談の原泉、實話の寶庫自己修養に教材に誠に得難き好指針だ。

A—本書を讀めば自ら發奮心努力心が起る(修養書)

B—學校で家庭で引張り凧!(面白い平易な讀み物)

C—教材に用ひて直ちに活かせる(便利な參考書)

D—子供に讀ませて安心出來る(總振假名付科外書)

全一册 —內容抄—

—尙武篇—
弓の上手・手負の猪・度膽を拔く・奧州の押・兵は密なれ・兵糧は大切

—忠孝篇—
忠孝二道・巳の刻・田舍武士・加封を固辭・阿諛を惡む・腕白の忠義・等

—克己篇—
見て見ぬ振・出世の緖・書世は貧乏・咳拂ひ・我身を知れ・過を責めず・等

—教化篇—
人物の養成・遊女通ひ・毀譽相半・智仁勇・米倉の番人・小智と大智・等

—信義篇—
誓言の裏切・弟子思ひ・同姓不娶・金には立てぬ針・よい家來・若輩者・等

—禮節篇—
行持潔白・老臣を劬る・能裝束・令は犯せず・左右の手・儒者氣質・等

—政治篇—
重箱の味噌・進言を容る・市中の物價・善行表彰・異材を拔く・上下和睦・等

—節儉篇—
儉約勵行・奢侈を惡む・小豆は穀・木綿綿・不時の用意・質素勤儉・等

第五高等學校教授 八波則吉先生 外五大家推奬・北崎永榮先生著

先生としてのお父さんお母さん

四六判美裝 四百頁普及版 價一圓 送料一四

こんな子供はどうするか？

眞劍な
實際上の
相談相手

どこの學校でも家庭でも惱みの種となつてゐる現實の切實な問題百を集めた

★逆に〈お父さんお母さんとしての先生〉としてもいゝ位だ！

●叱る時には　●學校の往復　●子供の鍛錬
●子供の言行　●子供の迷信　●口頭試問は
●短所と長所　●食物の好惡　●試驗の準備
●子供の貯金　●子供の仕事　●睡眠と保健
●臆病な子供　●勤勞の美風　●教師と子供
●子供の常識　●子供の服裝　●家庭愛を
●兄弟の不和　●朋友の選擇　●進級した時
●金錢の教育　●子供の缺席　——其他百項

「子供の教育」一程六ケ敷いものはない。仲びやすい、染まりやすい、子供が惡い方へ伸び、染ると否とは、ほんの僅かな注意の有無に因する場合が多い。本書は學校の教育の一半を擔ふ家庭に於ける子供の教育をいかにすべきかにつき眞劍に答へたもので、子供を素直に育てるために苦心される世の父母の方は勿論、實際教育に當られる先生方にも、日常顧問として是非座右に備へられんことを希んでやまない。

愛泉女學校長 高信峽水著 〔絶讃十五版〕

立志傳に輝く母の力

四六判美本寫眞多數
總振假名付
定價一圓八十錢
送料十四錢

◇雨につけ風につけ世に子を思はぬ母があらうか。且つ激勵する、——あゝ何時の日にわが子は立身出世をするのであらうか!?

◇世に秀でたる人の蔭には必ず母の力が働いてゐる。涙ぐましいばかりの愛！こゝにその僞らざる記錄がある。母の、子の良き讀本。

◇讀むものはみな泣く。母は力を得、子は涙を拂つて起つだらう。人の心を底から動かす現代實話！

現代を代表する廿一人の母、その隱れたる力

東郷元帥の母　荒木前陸相の母　尾上菊五郎丈の母
岡田首相の母　永井前拓相の母　菱刈前滿洲全權の母
齋藤前首相の母　武藤元帥の母　山田わか女史の母
後藤內相の母　南前陸相の母　伊藤深水畫伯の母
松岡洋右氏の母　三土前鐵相の母　竹兩社長の母
廣田外相の母　本間俊平氏の母　松前不動頭取の母
宇垣總督の母　金谷大將の母　牧野伯の母
吉岡彌生女史の母

★主婦の友に三ケ年連載して天下百萬の子女を泣かしめた涙の記錄。今新しく二三を加へて茲に廣く世に送る。

★範圍を政治家・軍人・藝術家・思想家に亦り各方面第一流の人物と其の面白く總振假名付の力を平易に總物に讀み物として家庭の讀物と學生、學校等の講話として近來の名資料。母の必讀書。

侍講 元田永孚先生 撰・蘆谷重常先生 謹譯

口語全譯 幼學綱要

明治天皇の聖慮に基く勅撰訓話集！
小學兒童にも讀める徹底的口語詳說
新興日本の道德的再建を目ざして百萬部普及計畫！

幼學綱要は、明治天皇が教育勅語渙發に先だち、國民道德の模範を示す思召しから侍講元田永孚に命じて撰進せしめ給ひ、全國小學校に恩賜せられた勅撰訓話集である。全七卷二十章中に、和漢に亘り美譚逸話二百二十九を收め、教育勅語の大精神も又本書中に顯現されてゐる。たゞ原文が當時の漢文直譯體で難解なる爲に、多くは奉安室に納められ道德聖典として活用されることが少なかつたのは正に聖代の遺憾事である。本書は此の國民的大寶典の全國的普及を目的として原書全部を小學兒童にも讀み易い口語文に謹譯し、これに詳細なる歷史的地理的註釋を加へたものである。從來世に出た一二の類書は原書の拔萃であり、或は原文の俤を全く止めざる再話集で、本書の內容とは比すべくもない。學童の讀物として、又敎師や父兄の話材集として此に超ゆるものなし。非常時日本に　明治天皇の御聖德を偲び、道德國家確立のためにも、全日本が擧げて就くべきは此書である。

原本挿畫四十八頁入
總ルビ附總布裝函入
四六判五百數十頁
定價二圓
送料十四錢

【教育・科學兒童讀物】

力行の巨人 黑澤偉人物語　佐々木秀一氏著　價一・五〇　送・一四
小學國史 日本女性名花集　川畑篤郎氏著　價一・四〇　送・一四
科學玩具二百種 作り方遊び方　渡邊軍治氏著　價一・八〇　送・一四
世界大發明家出世美談　渡邊軍治氏著　價一・八〇　送・一四
科學逸話 鳥獸蟲魚の生態　加宮貴一氏著　價一・八〇　送・一四
少年昆蟲採集法　厚生閣編輯部編　價一・〇〇　送・〇八
科學實驗と科學玩具の作り方　工藤善助氏著　價一・五〇　送・一二
電氣實驗と電氣玩具の作り方　工藤善助氏著　價一・五〇　送・一二
子供のための昆蟲學　加藤正世氏著　價二・三〇　送・一四
少年航空讀本　野田航空少佐校閲　山田新吾氏著　價二・〇〇　送・一四
少年航空兵とは？　山田新吾氏著　價一・二〇　送・一四
少年濱口雄幸　田中貢太郎氏著　價一・八〇　送・一四
戰場史實 血涙で綴る　土田忠助氏著　價一・二〇　送・一四
佛陀の說いた面白い話　小瀧淳氏著　價二・〇〇　送・一四
續佛陀の說いた面白い話　小瀧淳氏著　價一・八〇　送・一四
印度頓智百譚　ボース澁澤青花兩氏著　價一・九〇　送・一四
祝祭日お話集　長尾豐氏著　價二・〇〇　送・一四
臨海林間夏季學校お話集　長尾豐氏著　價一・八〇　送・一四
幼稚園ばなし　長尾豐氏著　價一・八〇　送・一二

少年少女世界地理文庫 ドイツ編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 ロシヤ編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 南洋編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 北歐編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 イタリヤ編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 濠洲編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年日本地理文庫 臺灣地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 朝鮮地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 奥羽地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 中部地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 九州地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 近畿地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 四國地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 中國地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本散理文庫 關東地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 北海道地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 樺太地方 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
少年日本地理文庫 南滿洲關東洲 橋本賢康氏著 價一・五〇 送・一二
お話全集尋常一年生 長尾豐氏著 價一・〇〇 送・一二
お話全集尋常二年生 長尾豐氏著 價一・〇〇 送・一二

【教育特輯研究】

當代教育の現實を視る 千葉春雄氏編 價一・九〇 送・一四
職業指導の實際研究 千葉春雄氏編 價二・三〇 送・一四
現代修身教育指針 千葉春雄氏編 價二・三〇 送・一四
公民教育の實際研究 岡本正一氏編 價一・八〇 送・一四
農村教育の企畫と實際 前本一男氏編 價二・〇〇 送・一四
國史教育の革新 前本一男氏編 價二・五〇 送・一四

【兒童叢書】

ファーブル蟲物語（第一卷） 水谷まさる氏著 價一・五〇 送・一四
ファーブル蟲物語（第二卷） 今田謹吾氏著 價一・五〇 送・一四
ファーブル蟲物語（第三卷） 千葉省三氏著 價一・五〇 送・一二
ファーブル蟲物語（第四卷） 須崎邦武氏著 價一・五〇 送・一二
ファーブル蟲物語（第五卷） 鎌田賢吉氏著 價一・五〇 送・一二
ファーブル蟲物語（第六卷） 濱田廣介氏著 價一・五〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 支那編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 イギリス編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 アメリカ編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 フランス編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 印度編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二
少年少女世界地理文庫 ブラジル編 西龜正夫氏著 價〇・六〇 送・一二

少年日本地理文庫 中部地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 奥羽地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 朝鮮地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 臺灣地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年少女世界地理文庫 濠洲 價西鶴〇・六〇正夫 發・二三氏著

少年少女世界地理文庫 イタリヤ 價西鶴〇・六〇正夫 發・二三氏著

少年少女世界地理文庫 北歐 價西鶴〇・六〇正夫 發・二三氏著

少年少女世界地理文庫 南洋 價西鶴〇・六〇正夫 發・二三氏著

少年少女世界地理文庫 ロシヤ 價西鶴〇・六〇正夫 發・二三氏著

少年少女世界地理文庫 インドシナ 價西鶴〇・六〇正夫 發・二三氏著

少年日本地理文庫 九州地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 近畿地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 四國地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 中國地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 關東地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 北海道地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 樺太地方 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

少年日本地理文庫 南洋諸島 價橋一・本五〇賢康 發・二三氏著

お話全集尋常一年生 價長一・尾〇〇豐 發・二三氏著

お話全集尋常二年生 價長一・尾〇〇豐 發・二三氏著

児乙部36-N-7
1200600484377